

## 神戸でCOP21研修会 専門家がパリ協定報告



COP21の意義と今後の地球温暖化対策について専門家が報告した研修会 = 神戸市中央区

拡大

「神戸新聞> COP21」の記事をお探ですか？ [最新関連記事が 10+ 件 あります。](#)

2020年以降の地球温暖化対策の新たな国際ルールを決めた国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議（COP21）に参加していた専門家が、同会議で採択されたパリ協定の意義などを報告する研修会が22日、神戸市中央区のスペースアルファ三宮で開かれた。

研修会はひょうご環境創造協会の主催で、県の地球温暖化防止活動推進員や一般市民、企業などが対象。国立環境研究所社会環境システム研究センターの久保田泉・主任研究員が講演した。

パリ協定は法的拘束力がある国際条約として合意。産業革命前からの平均気温上昇を2度未満に抑えるため、各国に5年ごとの約束草案（地球温暖化ガス排出削減の目標）提出を義務付ける。

久保田主任研究員は「上昇2度未満という目標を明確化したことで、今後排出できる温室効果ガスの上限が見えた。途上国を含む全ての国が参加した意味も大きい」と語った。

今後の温暖化対策について、久保田主任研究員は「国際社会は脱化石燃料にかじを切った。日本では石炭火力発電所の建設計画が相次ぐが、計画通りに建てれば、温室効果ガス削減目標を守ることはできない」と指摘した。（森本尚樹）

「神戸新聞> COP21」の記事をお探ですか？

最新関連記事が 10+ 件 あります。

□